

優先 主張の出席

西暦/981年6月12日

イタリー国出願 637316



優先権証明書補充

(34,700) 実用新案登録願()

57.6.11

特許庁長官 訂

昭和 年

月 日

1. 考案の名称 ワイパー用ピポットピン

2. 考案者

住所 1イタリー国 10098 リジョリ ヴィア ロッセーリ

氏名 ザセツベ マイオコ

3. 実用新案登録出願人

住所(居所) 1イタリー国 10040 トリノ ドルエント
グイア グエナリア 13

商標(名称) テヤンピオン スパーク プラグ
イタリアーナ ソチエタ ペル アツイオーニ

代表者 アンニバール フラッティーニ

国籍 イタリー国

4. 代理人 住所 特許庁 57087316 6653 113番1号 電話(03) 211-8741

氏名 57087316 村 稔
出願第2種
郵便
(ほか 4名)

実用58-6653

640

57 087316

明細書

1. 考案の名稱 ウィパー用ビボットピン

2. 實用新案登録請求の範囲

- (1) 橫断ビボットピン3、4を有するウィパーブレードプリッジ1、2において、ビボットピン3、4は上記プリッジ1、2に設けられた開口10、20内でプリッジ1、2に対し横断方向に滑動可能であることを特徴とするウィパーブレードプリッジ。
- (2) ビボットピンがリバット3、4であることを特徴とする実用新案登録請求の範囲第(1)項記載のウィパーブレードプリッジ。
- (3) ビボットピン3、4が、その両端において、ウィパーアームコネクタ20を保持し案内するための手段6a、6b；14a、14bを有することを特徴とする実用新案登録請求の範囲第(1)項記載のウィパーブレードプリッジ。
- (4) 上記2つの保持及び案内部材が平盤6a、6bの形状を有するか、又は細長い平盤部品14a、14bの形状を有する実用新案登録請

求の範囲第(3)項記載のワイパープレードプリッジ。

- (5) 2つの保持及び案内部材14a、14bが、1つの底部13を形成する如く一緒に連結された実用新案登録請求の範囲第(4)項記載のワイパープレードプリッジ。
- (6) ピボットピン4とプリッジ2に設けられた対応する開口20とが切断面を有し、ピボットピン4がその軸を中心に回転できないことを特徴とする実用新案登録請求の範囲第(5)項記載のワイパープレードプリッジ。
- (7) 2つの保持及び案内手段14a、14bがピボットピン4に固く接着されたことを特徴とする実用新案登録請求の範囲第(6)項記載のワイパープレードプリッジ。
- (8) プリッジ1、2の断面が実質上U型である実用新案登録請求の範囲第(1)項ないし第(7)項のいずれか一項に記載のワイパープレードプリッジ。

3. 考案の詳細な説明

本発明はワイパーームに取付けるための横断ピボットピンを有するワイパープレードプリッジに関する。このようなプリッジは、例えば、自動車のワイパープレードに使用される。

公知のワイパープレードプリッジには、ワイパーームの背部に接着されるように設計されたプリッジと、ワイパーームの側部に接着するよう設計されたプリッジとがある。第1の場合には、ピボットピンがプリッジの2つの側盤の間に存在し、ワイパーームがプリッジの背部に設けられた開口を貫通するピボットピンに取付けられる。これに対し、第2の場合には、ピボットピンがプリッジの側盤の一方から横方向に突出する。本発明は上記第2のワイパープレードプリッジ、すなわち横方向に突出するピボットピンを有するワイパープレードプリッジに関する。

ワイパーームに横方向に取付けられたワイパープレードプリッジは、例えば西独特許第2,310,374号や同第2,624,723



者が開示しており、前者はフック端型のワイパーアームを取り付けるためのコネクタを有するものであり、後者は直端型のワイパーアームである。上記2つの特許のブリッジ／コネクタ／アームのアッセンブリは、ブリッジすなわちワイパー／ブレイドが 180° ひっくり返すことなくワイパーの両側に取付けることができない欠点がある。

もし、ワイパー／ブレイドがピボットピンを通過する横断面に開し対称であるならばこれは重要でなく、そのようなことは上記横断平面に開し対称でないワイパー／ブレイドにとつてもはや問題でない。実際ワイパー／ブレイドが 180° 回転する場合は、結果として、その両端が自動車製造者によつて最初に決められたレベルに開し過ぎたるか又は世すぎるかのいずれか一方となる。さらに、ワイパー／ブレイドが上記横断平面に開し非対称に配はされた第2のヨークを有するならば、拭取面に沿つた圧力の分布は、もしワイパー／ブレイドを 180° 回転するならば自動車製造者によつてあらかじめ定められた圧力と同じではない。

本発明によるワイパー・ブレード・アリッジは、ピボット・ピンがアリッジに設けられた開口内のアリッジに横断方向に滑動可能であることによつて特徴づけられるから、本発明によるワイパー・ブレード・アリッジは上記の欠点を除いている。このように、ワイパー・アームはアリッジの右側及び左側のいずれにも取付けられることができる。

本発明は、添付図面を参照して2つの実施例の説明によりよく理解されるであろう。

第1、2及び5図は本考案によるアリッジ/ピボット・ピンの第1実施例を示す。アリッジ1の横断面は、2つの側壁12a、12bとウエブ11とからなる逆U字型である。アリッジ1の2つの側壁12a、12bは円開口10の直径よりも僅かに小さい直径を有するピボット・ピン8を通過する2つの円型開口10(第5図)を有し、それ故にピボット・ピン8は開口10内を横方向に滑動可能である。第1、2及び5図において、ピボット・ピン8は2つのヘッド部を有するリベットであり、ピボット・ピンは例えばボルトとナットから構成されてもよい。

第8ないし10図は、例として、第1図のリベ

シート3に装着することができるコネクタ21を示す。このコネクタ21は、それ自体公知であるようIC、第11 国際登録番号30ICによつて示されるようなフック端盤のワイヤーフームの連結器である。コネクタ21をリベット3上に装着するため、上記リベット3は上記シート26に準備された開口27を介してコネクタ21のシート26に挿入する。コネクタ21がリベット3上に装着されると、もしそれがプリツジ1の1つの側に装着されると、平面ディスク6bによつて案内され、または、それがプリツジ1の他の側に装着されると、平面ディスク6aによつて案内される。

平面ディスク6a、6bは中央円型開口7、8を抜け、また、ピボットピン3がリベットならば、ディスク6bの一方は対応するリベットヘッドによつてリベットに強く固定され、これに対し、他のディスク6aはリベットを中心に回転可能であつてもよい。しかしながら、もしピボットピンがボルトならば、2つのディスクはボルトのまわりに回転自在であつてもよい。

第3、4、6及び7図は、本発明によるアリッジ／ピボットピンアッセンブリーの第2の実施例を示す。この第2実施例において、第1実施例のディスク6a、6bは、アリッジ2の下を通過する横断片16によつて一緒に連結された2つの細長い部品14a、14bによつて置換えられている。このように、ディスク6a、6bの代りは、ピボットピン4上のコネクタ21を保持するリ字型部品13である。

リ字型部品13の2つの側壁14a、14bの双方にはピボットピン、すなわちリペット4を通過させる開口17、18が設けられている。しかしながら、リペット4はその軸及び部品13のいずれについても回転不可能であるということに注意すべきである。すなわち、部品13とリペット4とはアリッジ2に關し回転可能である。こことは、例えば、部品13の側壁14a、14bの中だけでなく、アリッジ2の側壁15a、15bの中にもリペット4と対応する開口に沿つた半らな表面を設けることによつて達成される。

多くの他の公知のコネクタのように、コネクタ21は、第1実施例のリベット3又は第2実施例のリベット4上に接着されててもよい。また、上記コネクタは、例えば、すでに上に述べたようなフック端型のワイヤーアームのために設計されている。コネクタ21は、シート26と上記シートの開口27の他に、その2つの端部に横断片25によつて一緒に連続された2つの長い隔壁23、24を設けた部分的円筒ボディー22を有する。その底面において、コネクタ21は止め具29及び動作手段31を有する可搬性アレード28を有する。

コネクタ21がピボットピン4に接着されると、ワイヤーアーム30(第11図)は矢印A及びBによつて示されるようにコネクタに接着される。アーム30はアームのフックの下直線部に設けられた開口32の中に引掛けである止め具29によつてコネクタ21に接着される。この作動部において(第11図)、アーム30は矢印Cによつて示されるようにアリッジ2に開し軽く回転でき

る。

アリッジ／ピボットの新しいアッセンブリーの2つの実施例が開示された。しかしながら、本考案の変更や変形が、請求の範囲に定義された考案から逸脱することなく、可能であることは明らかである。

各図面の簡単な説明

第1図は本考案の第1実施例によるアリッジ／ピボットピンのアッセンブリーの平面図である。

第2図は第1図のアリッジ／ピボットピンアッセンブリーの側面図である。

第3図は本考案の第2実施例によるアリッジ／ピボットピンアッセンブリーの平面図である。

第4図は第3図のアリッジ／ピボットピンアッセンブリーの側面図である。

第5図は第1図の線V-Vに沿つた断面図である。

第6図は第3図の線VI-VIに沿つた断面図である。

第7図はピボットピンの中間位置のアリッジを

示す第 6 図と同様の断面図である。

第 8 図は本考案によるピボットピンに装着する
ことができるコネクタの平面図である。

第 9 図は第 8 図の断面図に沿つた断面図であ
る。

第 10 図は第 9 図のコネクタの底面図である。

第 11 図は本考案によるピボットピンに装着さ
れたワイヤーアームを示す第 9 図と同様の断面図
である。

1、2 ワイヤープレードブリッジ

3、4 ピボットピン

10 開 口

12a、12b 側 檻

20 開 口

21 コネクタ

29 止め具

FIG. 1

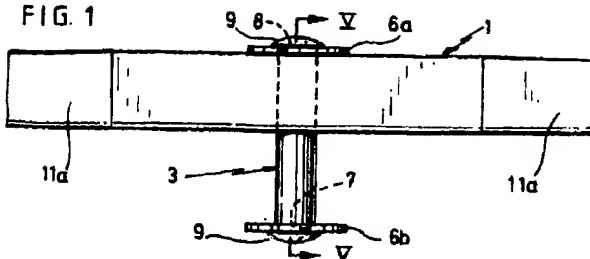


FIG. 2

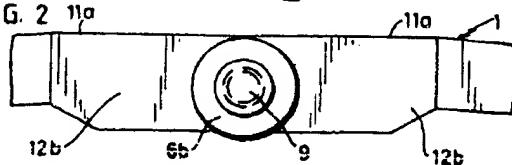


FIG. 3

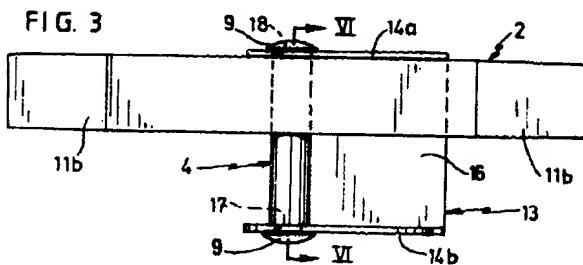
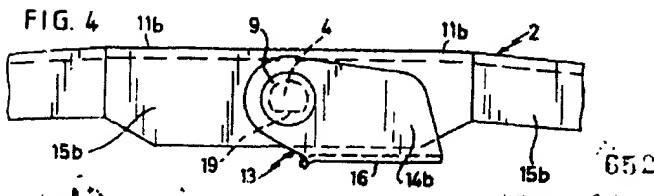
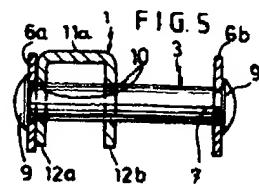


FIG. 4



実用58 66.3

特許人 中村 総



FIGS

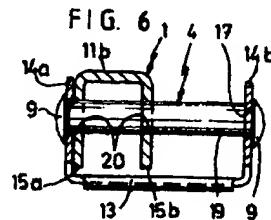


FIG. 6

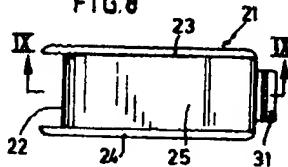
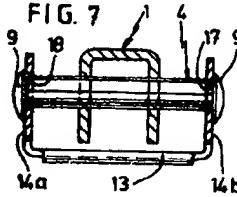


FIG. 9 23 25 2

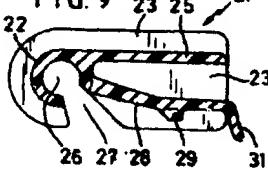


FIG. 10 24 21

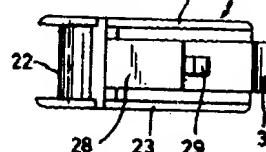
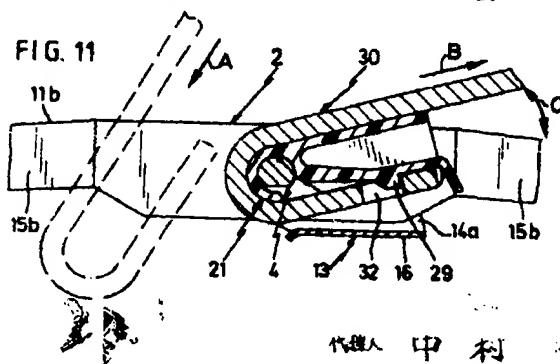


FIG. 11



作曲人 中利 伸

65

5. 添附書類の目録

(1) 明細書	1通
(2) 図面	1通
(3) 委任状及び訳文	各1通
(4) 优先権証明書及び訳文-(追つて補充する)	各1通
(5)	通

6. 前記以外の考案者、実用新案登録出願人および代理人

(1) 考案者

住 所

な し

氏 名

(2) 実用新案登録出願人

住 所 (居所)

氏 名 (名称)

な し

代表者

(3) 代理 人

住 所 東京都千代田区丸の内3丁目3番1号 電話 (03) 211-8741

氏 名 (6254) 弁理士 山 本

井 田 有 事

同 所 (6590) 弁理士 串 間 八 郎

井 田 有 事

同 所 (6701) 弁理士 大 塚 文 雄

井 田 有 事

同 所 (6518) 弁理士 夫 戸 嘉 一

井 田 有 事

実開58-6653

641